

事項一二 極東露領ニ緩衝地帯設置問題一件

五四六 四月十九日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

新任陸海軍總司令官ボルヴィレフト時局收拾

策ニ関シ懇談ノ際同人ノ談話二付報告ノ件

第一六三号 （四月二十日接受）

本官四月十七日新任陸海軍總司令官「ボルヴィレフ」ヲ往訪シ時局收拾策ニ関シ懇談ヲ遂ゲタルガ同人ノ談話要領左ノ通り

過般突発事件ノ善後策ニ關シテハ日本軍憲側ト協同委員会ヲ組織シ著々進行中ナルガ現状ノ儘放置ゼンカ其間意外ノ事件頻発シ事態益々紛糾スペク解決ヲ付クルハ焦眉ノ急務タリ而シテ先づ決スベキハ武装解除問題ナリトス本件ニシテ速ニ解決センカ餘ハ容易ニ決セラルベク余ノ信ズル限り武器ノ返還ハ露国當局側ニ取りテ善後策ノ基礎ヲ為スモノニシテ是ニ依リ露国人心ヲ融和シ臨時政府及余ノ処置命令又容易ニ行ハルニ至ルベク反日的言動ノ抑圧、日露両國兵配置其ノ他種々ノ方法ヲ講ジテ日本軍ニ対スル危險ヲ除キ得ルト信ズ依ッテ外交代表者タル貴官及貴軍憲ニ対シ本件至急解決方尽力ヲ請フ

「ソビエト」政府ト我臨時政府トノ關係ニ關シ前者ハ極東露領ノ國際上ニ於ケル特殊地位ヲ充分考慮シ居レルガ故ニ必ズシモ後者ノ存在ヲ不能ナラシムモノニアラズ歐洲ノ政情ハ變ジテ自然吾人ニ便ナルニ至ルベシ依ッテ現ニ漸進主義ニ依リ極東露領ヲ統一的露西亞ニ復帰セシメント計画スルモノニシテ日本軍撤退後ニ於テモ地方ノ秩序ハ相當維持セラレ滿鮮國境ノ脅威又ハ「ボルシエヴィズム」ノ同地方宣伝ノ如キ其ノ意図モ余力モ有セザルモノト信ズ

最後ニ貴聞ニ達シタキ事ニアリハ過日ノ事件後モ引続キ日本軍ノ露国兵營軍衙ノ占領行ハレ押収物件（「ボ」氏ノ自動車ヲモ含ム）還附セラレザルニ付右還附方軍憲ヘ交渉アリタキ事他ハ臨時政府ニ全然反抗的態度ニ出ヅル或ル政治的団体組織セラレ元日本軍側ニ出入シ居タル露国將校是ニ関係シ居レル由ノ風説市中ニ専ラニシテ普ク人心ヲ刺戟シキ得ルト信ズ依ッテ外交代表者タル貴官及貴軍憲ニ対シ本件至急解決方尽力ヲ請フ

居レル處右ハ臨時政府ノ最モ憂フル所ナル事是ナリ云々尚本官ハ「ウイレンスキイ」及緩衝地帯設置運動ノ張本人ト目セラル「ヤクショフ」「モラフスキイ」等トモ意見ヲ交換シタル後（脱）提出スル積ナリ

五四七 四月十九日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

極東露領ノ緩衝地帯設置計画ニ付モラフスキ

一ノ渡辺ニ対シ為セル談話報告ノ件

（四月二十日接受）
西伯利乃至極東露領ノ緩衝地帯設置説當地ニ伝ヘラルルヤ各新聞ハ何レモ反対ノ論議ヲ為シツアリシガ最近在当地「シベリア、オプラストニキイ」（州独立党）ニ属スル「ヤクショフ」「モラフスキイ」（「ガイダ」事件^{〔註〕}ノ首謀者連）一派カ本計画ヲ試ミツツアル由当地新聞ニ報道セラレタルニ對シ彼等ハ表面取消ヲナシタルモ其実窃ニ本運動ヲ続行シツツアル模様ニシテ本官ニ面会ヲ求メタルガ本官ハ特ニ世人ノ注目ヲ避ケル為自ラ面会ヲ避ケ四月十八日渡辺ヲシテ「モラフスキイ」ニ面会セシメタルガ「モ」ガ内話シタル要領左ノ通り

一二 極東露領ニ緩衝地帯設置問題一件 五四七

一二 極東露領ニ緩衝地帯設置問題一件 五四七

シテ将来ノ閣員トシテ如何ナル人物ヲ推スヤハニ各党派
団体等ノ推举ニ依ルベキモ自分ノ見込ニ依レハ「ボルヴィ
レフ」將軍（現臨時政府司令官）及「ヴィノグラードフ」
其他「ヤクショフ」「パトーシンスキイ」「ラブロフ」（前
「デルペル」政府首相）「クロリ」（カデット党有力者）
「ズナーメンスキイ」（国民社会党領袖）「アレクセーフス
キー」（前黒竜政府首班）「メドウエジエフ」「グレービッ
チ」及「ウツエフスキイ」將軍「ペムヤエフ」將軍等要
職ヲ占ムルニ至ルナラン

極東過激派及労働社会ノ本政府ニ対スル態度如何ハ悲観ス
ルニ及バズ即チ前者ハ本政府ガ労農政府ト條約ヲ締結スル
ニ至ラバ過激派中央機関ノ司令ニ服従ス可ク現ニ現臨時政
府樹立前本案討議ノ際極東過激派ノ首領株「ニキホロフ」
等ハ自ラ入閣ヲ欲スル意図ヲ有シ居タル位ニシテ又当地労
働者ハ「ガイド」事件後モ自分等ノ企図ニ対シ贊意ヲ表シ
タル事アリ愈本計画実現ノ曉ニハ「ニキホロフ」ノ如キ過
激派中ノ穩健人物ニ次官又ハ高々労働大臣位ノ地位ヲ与フ
レバ彼等トノ緩和ヲ計ルヲ得ベシ又本計画ニハ最近迄「ボ
ルジリヨフ」モ参加シ居タリ現臨時政府閣員中ニモ賛成ア

六六二

ルニ付彼等トノ間ニモ紛争ヲ見ルコト無カル可シ軍隊ノ編
成ニ付テハ現軍隊ヲ解隊シテ更ニ新政府ニ忠実ナル部隊ヲ
編成スル積ナリ

抑モ本計画実行ニハ先づ日本ノ意図ヲ確メ其ノ経済的援助
ニ関スル保証ヲ得タル後労農政府ニ談判シテ同政府トノ取
極ヲ為サザルベカラズ就テハ此際日本政府ガ本件ニ対シ如
何ナル意図ヲ有セラルルヤ若シ之ヲ支持セラル場合交換
条件トシテ如何ナル事項ヲ希望セラルルヤ成ル可ク至急聞
キ合セラレタシ尤モ本計画ハ若シ日本ノ贊意ヲ得ザル場合
ニモ武力ニ訴ヘテ迄モ実現セシメントノ意志無キニ依リ斯
ル場合ハ成行ニ委スノ外ナシ云々

本計画ハ我方ニ取りテ頗ル都合ヨク見ユルモ未ダ一概ニ
「モラフスキイ」ノ言ヲ信ズル能ハズ殊ニ現政府側ニ於テ
ハ本計画ニ対シ日本トノ関係ヲ頗ル猜疑的眼ヲ以テ注視シ
居ル模様アルニ顧ミ迂闊ニ深入スル事ハ頗ル危険ナルヲ以
テ慎重ニ各方面ヨリ確メツツアルニ付何レ確メタル上立案
スル積リ

註 「ガイド」事件ニ付テハ日本外交文書大正八年第一冊第五〇

○ 五〇（文書参照）

五四八 四月二十三日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

極東露領ニ緩衝地帯設置ノ計画ニ關シ其主謀 者ノ一人タルヤクショフノ談話等報告ノ件

第一八〇号

（四月二十四日接受）

緩衝地帯問題ニ關シテハ「エスエル」党カ主力ヲ占メ居ル
在当地全西比利「ゼムストウォ」及都市聯合会極東支部ハ
最近公然運動ヲ起シ去月十六日再興シタル機関「ウーリ
ヤ」紙上ニ於テ本問題ノ内容経過等ヲ詳報シ全西比利地方
及当州「エスエル」党ノ本計画賛成的決議等ヲ掲載シツツ
アリシガ右ニ対シ當地言論界ハ過激派ハ「クラスノエ、ズ
ナーミヤ」紙ガ之レ「エスエル」党ノ党派的偏見ニ基ク対
現政府乃至過激派反対運動ニ過キズト抗弁のニ非難シタル
外他ノ新聞ハ何等論議ヲ試ミタルモノ無キ有様ナルガ尚本
案其後ノ成行等ニ關シ部員ヲシテ其主謀者ノ一人タル
「ヤクショフ」ニ就キ確メシメタル処「ヤ」ハ大体「モラ
フスキイ」ノ所説ヲ裏書シタル後本計画ト現臨時政府乃至
過激派トノ関係ニ關シ概シテ樂觀説ヲナシ曰ク本計画ガ露
現國ノ現状及極東ノ國際的關係上露國民衆ニ依リ支持セラル
「ヤクショフ」ノ言ニ拠ルニ彼等一派ハ強テ現「メドウエ
ジエフ」政府ヲ顛覆シテ新ニ政府ヲ樹立スルノ意向ニアラ

一二 極東露領ニ緩衝地帯設置問題一件 五四八

六六三

ザル如ク見ユルガ是レ最近我軍憲ノ高圧的態度ニ鑒ミ当地方朝野人士間互ニ妥協緊密ノ傾向ヲ來シツツアル結果ト思ハル

五四九 四月二十四日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

**極東露領緩衝地帯設置計画ニ関スルカデット
党領袖ノ意図報告ノ件**

第一八一号 （四月二十五日接受）

往電第一八〇号緩衝地帯問題ニ関シ当地「カデット」党領袖「ウラズネセンスキ」（且下当地支部長ヲ辞セルモ当地ノ言論及法曹界ノ重鎮タル者）ガ渡辺ニ語リタル所ハ大体「ヤクショフ」所説ト同様ナルガ其ノ概要左ノ通本問題ハ統一的露國復興ヲ標榜スル我党トシテハ主義上贊成スルヲ得ザレドモ露國殊ニ当地方ノ國際的關係ニ於ケル現状ヨリ寧ロ露國統一策ノ一手段トシテ一時的ニ是ヲ実現スルハ機宜ノ処置タリト思考ス但シ是ガ實現ハ露國人自ラ之ニ当ルヲ要シ是ガ為ニハ吾人ハ現存「ゼムストウヲ」臨時政府ノ欠陥ヲ補足守立シルコト即チ過激派穩健派分子タル「ニキホロフ」ノ如キ人物ハ之ヲ存置シ是ニ左党右翼ルヲ疑ハズ云々

統治露國ノ統一ハ長引クニ至ルベシ是ニ依リテ最近朝野ノ有志ハ互ニ党派的偏見ヲ去リ庶民一致シテ此ノ種政權ノ確立ニ努力シツアリスル政府ノ樹立ハ露人ニ取りテノミナラズ露國ニ利害關係ヲ有スル聯合側殊ニ当地方ニ密接ノ關係ヲ有スル日本ニ取リテモ有利ナルベケレバ自分ハ日本ガ本計画ノ階梯タル現政府改善ノ業ニ好意的態度ヲ持セラルルヲ疑ハズ云々

五五〇 四月二十六日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

**極東露領緩衝地帯設置計画ニ関スル中央労農
政府トノ折衝其他ニ付前黒竜政府主班アレク**

セーフスキーノ談話報告ノ件

第一八三号 （四月二十七日接受）

往電第一八一号緩衝地帯問題ニ関シ下当地ニ於テ臨時政府事務援助中ノ前黒竜政府首班ニシテ「エス、エル」党ノ領袖タル「アレクセーフスキ」ガ渡辺ニ語リタル所ハ大要「ヤクショフ」「モラフスキ」等ノ所説ト同様ニシテ彼ハ「イルクーツク」ニ於テ脱獄後一時同市「ボリチカルセント」團ノ有力者トシテ労農軍ノ東漸防遏策タル本計画

一二 極東露領ニ緩衝地帯設置問題一件 五一〇

分子乃至出来得ペクンバ経綸アル財政家ヲ入閣セシメテ極東聯立政府ヲ確立スルヲ要ス現ニ自分ハ此ノ程現臨時政府法相「マナエフ」ニ対シ「ヤクショフ」「モラフスキ」一派及資産階級ノ有力者（「カデット」党員ハ望マシキモ月二十日ノ有力家會議（往電第一七五号）ノ模様ニ依レバ自分ノ提言ヲ不問ニ附スル事無カルベシ又最近ノ輿論タル議會ノ如キモ実現セラルニ至ルベク果シテ斯ノ如ク進歩セバ略理想的ノ政府出自然緩衝國ヲ出現スルニ至ル次第ガ果シテ如何ナル程度迄之ヲ容ルルヤハ不明ナルモ本月二十日ノ有力家會議（往電第一七五号）ノ模様ニ依レバ自分ノ提言ヲ不問ニ附スル事無カルベシ又最近ノ輿論タル議會ノ如キモ実現セラルニ至ルベク果シテ斯ノ如ク進歩セバ略理想的ノ政府出自然緩衝國ヲ出現スルニ至ル次第ナリ

然シテ過激派其他極左党ニ近キ團体ガ本問題ニ対シ先頃迄反対ノ態度ヲ示シタルハ本計画ガ外国ノ力ニ依リ投機的連中（「ムラコスキ」等ヲ意味スルモノカ）ガ政變的ニ是ヲ行ハレントスルヲ恐レタルニ起因スルナランモ今ヤ形勢ハ變化シテ彼等自身モ從来ノ主義直行ヲ捨テ軟化右變シ他党ト協力シテ現政府擁護ノ態度ヲ示セルニ依リ本計画ニ反対スルノ虞アラザルベシ然レドモ他党側ヨリ過激派ヲ排スルガ如キ事アリテハ政府ハ孤立シ内乱ハ繼續セラレ極東ノ

一二 極東露領ニ緩衝地帯設置問題一件 五五

六六六

斯クテ日露軍間目下ノ懸案解決セラレ交通復旧ノ既成ノ事実トシテ今ハ過去ヲ論部ヨリノ妨害ナキ限り二三ヶ月ヲ出デズシテ極東一帯ハ統一セラレ茲ニ始メテ我党ノ主眼トスル露國復興ノ事業階梯タル西伯利ノ自治独立州即チ一個ノ緩衝團ノ基礎ハ確立セラル次第ナリ本計画ノ達成ハ露國殊ニ西伯利ニ対シ密接ノ利害關係ヲ有スル日本ニ取りテモ有利ノ業ナル以テ日本ガ之ニ賛成スルヲ疑ハズ自分ハ從来極東露領ノ事業ハ第一ニ日本トノ了解提携ニ拠ラザルベカラズトノ意見ヲ持シ之カ實行ニ努メタルガ今後モ同一方針ヲ持続スルモノナルニ依リ日本ガ此際本運動ニ後援ヲ与ヘラルコト即チ之ガ手段トシテ目下ノ不祥事件ヲ成ルベク迅速ニ友誼的ニ解決セラレ現政府ヲ不利ノ立場ニ陥レズ極東政權ノ確立ヲ速ナラシムル様當局ニ於テ尽力セラレンコトヲ切望スルモノナリ自分ハ今次事件ノ調査委員長ヲ嘱託セラレ爾來事件ノ顛末ヲ調査中ナルガ本件ニ對スル責任上正邪如何ノ問題ハ暫ク別トシ個人トシテ彼ノ「ニコラエフスク」事件ノ慘劇ニ鑒ミ日本軍憲力單ニ軍事的見地ヨリ彼ノ処置ヲ取ラレタル立場ヲ諒トスルモノナルモ本件ノ結果方如何ニ政治的外交的關係ニ惡影響ヲ及ボスカノ点ニ付顧慮ヲ欠カレタルヲ遺

憾トスルモノナリ而モ之ハ既成ノ事実トシテ今ハ過去ヲ論ズルノ時ニアラズ須ク日露将来ノ關係ニ着眼シテ之ノ際互讓的ニ善後策ヲ講ゼザルベカラズ自分ハ家族呼寄ノ為近々一応巴里ニ赴キ二ヶ月許リ同地滯在ノ後帰還スル予定ナルガ願クバ其レ迄ニ「チェック」軍モ撤退ヲ了シ極東ノ問題ハ日露間ニ於テ相互的利益増進ノ見地ヨリ有効的ニ解決セラレンコトヲ祈ル云々

五五一 五月九日 在ハルピン松島總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

在ウェルフネウジンスク極東共和国ノ獨立宣

言ニ關シ在チタ緒方ヨリ報告ノ件

別電一 五月九日松島總領事發内田外務大臣宛電報第三六

三六五号ノ二

ウエルフネウジンスク革命政府外交代表ヨリ

黒沢特務機關長宛書翰

極東共國立法會議ノ極東共和国獨立宣言書

第三六五号

(五月十日接受)

緒方ヨリ左ノ通
大臣へ転電アリタシ

第七八号

在「ウェルフネウジンスク」革命政府外交代表者「クラスノシチヨーコフ」ハ本月(不明)日「イルクーツク」ヨリ当地ニ帰来セル英國大尉「カアフュウ」ニ託シ当地黒沢特務機關長宛文書ヲ送附シ來リタルガ右大要ハ別電第一号「クラスノシチヨーコフ」ヨリ黒沢宛書翰及第二号立法會議長「オレシニコフ」ノ発セル宣言書ノ通り御参考迄電報ス

右松平佐々木へ転電スミ(長春中継十日前十二、四〇)

(別電一)

五月九日松島總領事發内田外務大臣宛電報第三六五号ノ一

ウェルフネウジンスク革命政府外交代表者ヨリ黒沢特務機關長

宛書翰

第三六五号ノ二

緒方ヨリ左ノ通

別電第一号

別紙(別電第一号)「ウェルフネ」立法會議ノ宣言書ヲ貴

一一 極東露領ニ緩衝地帯設置問題一件 五五一

六六七

悲慘ナル内争ニ依リ同胞流血ノ慘ヲ見ルコト正ニ二年其間

一一一 極東露領ニ緩衝地帯設置問題一件 五五二

六六八

暴虐ナル各「アタマン」及同一派ハ政權ヲ恣ニシ暴力掠奪
殺戮等至ラザル無ク吾人ヲシテ生活ニ堪ヘザラシム尚支那
トノ平和的交渉ヲ不可能ナラシメ聯合国ヲシテ我地方ヲ占
領セシムルニ至レリ依ッテ全後貝加爾住民ノ選出セル吾人
ノ代表者ハ茲ニ左ノ事項ヲ決議ス

一、「コルチャク」及「セメノフ」ノ自称政府ヲ顛覆スル
コト

二、我地方ガ外國ニ接壤シ欧露中央政府ト隔絶シ居ルニ顧
ミ極東（後貝加爾、黒龍、沿海、薩哈哩、勘察加地方及東
支鐵道租借地帶ヲ含ム）ヲ独立共和国ト宣言ス

三、極東共和国ニ民主政權ヲ樹立ス該政權ハ國民ノ選挙セ
ル代表者ニ依リテ組織セラレ民意ヲ尊重シ民權ノ自由ヲ保
障ス

四、立法會議ハ極東ニ於ケル各政党及民族代表者ヨリ成ル
臨時政府ヲ組織セシメ軍事及政治全權ヲ掌ラシム

五、立法會議ハ「コルチャク」及「セメノフ」部下ノ將卒
ニ対シ速ニ武器ヲ棄ツヘキコトヲ勸告スルト同時ニ彼等ヲ
シテ自由ニ且郷里ニ帰還シ和平事業ニ復セシムルコトヲ約
ス

六、立法會議ハ民主的主義ニ順応シ死刑ヲ全廢ス

七、立法會議ハ平和及平和的事業ノ復活ニ努力シ各國殊ニ
隣邦善隣ノ關係ヲ確立シ外国人ノ生命財產ニ対シテハ不可
侵ヲ保障ス

八、立法會議ハ世界公益ノ為ニ我政府ト聯繫ヲ保持センガ
為全權代表者ヲ各國ニ派遣シ交渉ヲ開始センコトヲ提議ス

九、我政府ハ如上ノ事項ヲ實現スルコトニ努力シ地方ノ住
民ノ支援ヲ受ケ居ルモノナルコトヲ茲ニ声明ス

立法會議長「オレシニコフ」署名

（長春中繼九日後二、〇〇）

五五二 五月十日

内田外務大臣（ヨリ）
在英國珍田大使宛（電報）

極東露領ニ緩衝地帯設立ノ各種ノ計画案ノ進

行ニ付通報ノ件

第一〇五号

貴電第四〇三号ニ関シ

貝加爾湖以東ニ於テ帝国トノ衝突ヲ防止スル為緩衝的ノ地
域ヲ設定セントスルノ希望ハ労農政府側ニ於テモ之ヲ把持
セルコトハ四月下旬松平ト「ウイルレンスキ」（在浦潮莫

セントスル計画ヲ發表シ我軍憲ニ其ノ意図ヲ問合セ来レリ

五五三 五月十三日 在浦潮松平政務部長（ヨリ）
内田外務大臣宛（電報）

大井司令官ノ宣言ニ對スル浦潮新聞論調ノ件

第二三四号 （五月十四日接受）

大井司令官ノ宣言ニ對スル五月十二日當地二新聞ノ論調大
要左ノ通

「ウーリヤ」大井司令官ノ宣言ニ拠リ吾人ハ始メテ日本
軍ノ對時局觀並ニ對極東策ノ決定的意向ヲ窺フヲ得タリ現
政局ニ對スル該見解カ单ニ日本軍ノミナラズ政府及國民ノ
輿望ニ外ナラズトノ声明ハ吾人ノ特ニ注意ヲ払フ点ナリト
斯本宣言ノ動機ニ於テ過激派側ノナシタル日過兩軍間ノ不
可侵地帶及「ウェルフネウジンスク」政府ノナシタル極東
独立政府設立ニ關スル提議ヲ指摘シ之ニ関シ日本軍カ衷心
政情ノ確定ヲ希望シ何等領土的野心ヲ有セザル旨ヲ声明シ
タルハ日本政府屢次ノ宣言ト符合スルモノニシテ吾人ハ右
宣言ヲ十分ナル満足ヲ以テ受クルモノナルモ日本軍ハ「チ
エック」撤兵後モ極東政情確定シ過激派ノ危険ナキニ至ル

迄ハ撤兵セザルノ決意ヲ示シタルヲ遺憾トス之ニ依リ日本
ヲ許サス中央ニ對シテハ政治的ニ独立スルモ經濟的ニ關係
ト條約ヲ締結シテ内乱ヲ中止シ領域内ニ「ソビエト」政治
尚最近「チタ」方面労農會議ヨリ極東五州ノ自治州ヲ形成
本計劃ニ依ル政團ノ領域ハ西「エニセイ」県迄又ハ出来得
ヘクシハ「オムスク」地方迄トシ該地域内ノ「ゼムストウ
オ」及都市等自治團「コペラチーブ」各政派團体各民
族等ヨリ各自代表者ヲ出シテ民主的政府ヲ設立シ労農政府
アルカ如ク思惟セラル「モラウスキ」ガ政務部員渡辺副
領事ニ對シ為シタル内話ノ大要左ノ通

本計劃ニ依ル政團ノ領域ハ西「エニセイ」県迄又ハ出来得
ヘクシハ「オムスク」地方迄トシ該地域内ノ「ゼムストウ
オ」及都市等自治團「コペラチーブ」各政派團体各民
族等ヨリ各自代表者ヲ出シテ民主的政府ヲ設立シ労農政府
アルカ如ク思惟セラル「モラウスキ」ガ政務部員渡辺副
領事ニ對シ為シタル内話ノ大要左ノ通

「ウーリヤ」大井司令官ノ宣言ニ拠リ吾人ハ始メテ日本
軍ノ對時局觀並ニ對極東策ノ決定的意向ヲ窺フヲ得タリ現
政局ニ對スル該見解カ单ニ日本軍ノミナラズ政府及國民ノ
輿望ニ外ナラズトノ声明ハ吾人ノ特ニ注意ヲ払フ点ナリト
斯本宣言ノ動機ニ於テ過激派側ノナシタル日過兩軍間ノ不
可侵地帶及「ウェルフネウジンスク」政府ノナシタル極東
独立政府設立ニ關スル提議ヲ指摘シ之ニ關シ日本軍カ衷心
政情ノ確定ヲ希望シ何等領土的野心ヲ有セザル旨ヲ声明シ
タルハ日本政府屢次ノ宣言ト符合スルモノニシテ吾人ハ右
宣言ヲ十分ナル満足ヲ以テ受クルモノナルモ日本軍ハ「チ
エック」撤兵後モ極東政情確定シ過激派ノ危険ナキニ至ル

軍ノ極東緩衝国設置ニ対スル同情ハ最近極東露人ト日本軍トノ間ニ生ジタル紛糾関係ヲ速ニ緩和セントノ意ニ出デタルモノノ如シ露國民ハ當地方ニ於ケル政治及經濟状態復旧ノ事業ニ対シ一層興味ヲ有スルモノナルヲ以テ臨時政府ハ日本軍ノ駐屯ヲ要セザルカ如キ状態実現ニ対シ有ラユル手段ヲ講スベキナリ

「ゴーロス、ローデヌイ」大井司令官ノ宣言中最モ興味ヲ有スル部分ハ緩衝国ニ閑スルモノニシテ其他ハ駐兵ニ閑スル軍從来ノ宣言ヲ繰返シタルト「ニコラエフスク」事件ノ代償要求ニ過キズ

緩衝国問題ニ於テ將軍カ露國民意ヲ尊重スルコト本件ニ何等干渉ヲ為サズ爾今露國人ノ一部ニ援助ヲナサズトノ声言ヲ与ヘタルハ吾人ノ最モ之ヲ多トシテ歡迎スル所ニシテ之ニ依ツテ吾人ハ從來臨時政府及之ヲ選出シタル人民ニ対シ非難輕蔑的態度ヲ持シ來リタル日本軍ノ見解カ善意的ニ変転シタルモノト認メント欲ス吾人ハ日本軍カ露國ノ民意ニ逆行スル「セメノフ」問題ノ解決ニ助力シテ國民ノ輿望ニ添ハシムルノ実ヲ挙ゲンコトヲ期待ス蓋シ後貝加爾戰線ハ極東建國會議ノ召集ハ勿論單ニ浦潮及其他地方トノ政權統

五一四 五月十七日 浦潮派遣軍參謀長ヨリ
山梨陸軍次官宛（電報）
大井司令官ノ宣言ニ対スル極東共和国外相ノ回答報告ノ件

浦參謀第四三六（五月十八日接受）
大井司令官ノ声明ニ対シ在「ウ」市外交代表者ノ回答

五月十一日ニ於ケル軍司令官ノ声明ニ対シ在「ウ」市外交代表者「クラスノシチヨコフ」ハ十六日左記回答ヲ我ニ致セリ

左記

極東共和国ノ名ニ於テ本官ハ外務大臣トシテ貴官ノ宣言ニ對シ深厚ナル満足ノ意ヲ表ス我等ハ貴國最高府及貴國民ノ輿論ヲ代表スルモノト確信スル該宣言カ過去數週間ニ於ケル疑念ト猜疑ノ層雲ヲ一掃シ得ヘキ此ノ千載一遇ノ好時機ニ發表セラレタルコトヲ真ニ幸福トスルモノナリ沿海州地

方ニ於テ發生セシ悲シムヘキ事件知多方面ニ於ケル革命軍ニ対スル日本各部隊ノ戰鬪行為同地方ニ於ケル迫害サレタル人民ハ專横慘酷非人道ナル反革命軍殘党ノ支配下ニ塗炭ノ苦シミニ呻吟シアル如キ之等ハ延イテ多クノ露國民ヲシテ日本出征軍カ露國民ノ安寧秩序及「デモクラシー」ノ為ニ戰フニ非ズシテ他ノ目的ヲ有スルモノト信セシムルニ至レリ公明正大ナル貴官ノ宣言書カ熱烈ナル態度及極東民ニ對スル深厚ナル同情ヲ以テセラレ之ニ加フルニ我極東共和國ノ独立宣言ヲ基礎トセル完全ナル提議ハ日本出征軍ノ撤兵及兩國民ノ意義アル經濟關係ノ復活ニ最大ノ好意ヲ表セラレタルモノトス

我共和政府ハ後貝加爾及極東諸州ヲ合併シテ健全ナル政權ノ設立ト各地方ノ發動權ノ一致ヲ以テ第一歩ニシテ且主要ナル目的トス而シテ此ノ合併カ民主自治機關ノ唯一ノ保証タルヲ得ヘク又完全ナル國家ノ存立トシテ承認セラレ得ヘキモノト見解ス

我等ハ日本軍ノ司令官カ吾等ノ勢力ヲ東方ニ伸展スヘキ日ノ實現速カナル如ク取計ハルル事ヲ熱望ス希望セラレタル中立地帶ニ閑シテハ勞農露國ノ諒解ノ下ニ「ウエルフネウ

ジンスク」占領當日ニ於テ吾政府ニヨリ赤軍ハ「セレンガ」河ヨリ西方ニ於テ停止スルコトヲ提倡セリ我革命軍ハ我人民間ニ介在スル反革命軍殘党ノ存在ヲ許サザルコトヲ主張セリ而シテ平和ヲ切望スル為日本軍前進部隊ト衝突ヲ避ケントシ我政府軍及軍隊指揮官ハ凡ユル手段ヲ取リタリ四月十三日六六号（エイケ？）司令官署名電報其他多クノ電報及通告ニ於テ我等ノ意志ハ通シアルモ尚完全ナル事件ノ解決ヲ求ムル為本官ハ貴官ニ対シ左ノ声明ヲナスヘク権能ヲ与ヘラレタリ

我政府ハ日本軍トノ戰鬪中止及反革命軍ノ武装解除ト戰鬪中止トヲ形成スル条件ノ下ニ國內ノ總テノ敵ニ対シテモ作戰行動ヲ中止スヘキ用意アリ

我政府カ和平ト併合トヲ熱望シアルコトハ最早細述ノ要ナカラシ又日本軍司令官ノ提言ハ喜ンテ御受ケスヘク本件ノ迅速ナル終結ヲ見ルヘキ協議ヲ遂ケン為双方同意シタル日次場所ニ代表者ヲ派遣スヘキ準備ヲ有ス

千九百二十年五月十五日

極東共和國外務大臣

「クラスノシチヨコフ」

一一一 極東露領ニ緩衝地帯設置問題一件 五五五

六七二

五五五 五月十七日 在チタ黒沢陸軍大佐ヨリ
福田參謀次長宛 (電報)

ウェルフネウジンスク政権ノ反過激派団体覆滅ヲ默視スルハ不可ナル旨上申ノ件

知多第七五四号 (五月二十日外務省写接受)

時局所見

一、「ウェルフネ」政権直接ノ目的ハ「セメノフ」以下ノ反過激派団体ノ覆滅ニアリ之ガ為日本軍ニ対シ該革命軍ノ極東ニ対スル自由通行ヲ要求ス又内敵ニ対シ軍事行動ヲ停止スルニハ日本軍カ反革命団ヲ圧迫シ其武器ヲ投シ敵対行動ヲ停止セシムルヲ条件トス

二、露國反過激派団体ハ祖國復興ノ為過激派ト戰ヒ來リ時利アラズシテ果無クモ今日弱者ノ位置ニアリト雖モ其意氣ハ彼ノ治下ニ属スル迄落魄シアラズ

三、従テ現在ノ大勢ヲ以テ右兩者ヲ妥協セシムルコトハ不可能ト觀察ス

四、「ウェルフネ」政権ハ革命政権又ハ共和国ト称スト雖モ其实質ニ於テ過激派ト異名同体ナルコトハ誤リナシ故ニ單ニ日本軍ト「ウェルフネ」政権トノ間ニ所要ノ取極ヲ行

即チ自由争闘ニ関スル「ウェルフネ」政権ノ主張ヲ拒絶スルニ非ザレバ過激派ナラザル政治団体ヲ造ルコト難シ結局一片ノ理想ニ止マラン

五、抑一国ノ政権内ニ抱擁セラル緩衝國ハ決シテ永ク本性ヲ保持スルコトヲ得ザルハ論ヲ俟タズ極東露領ニ於テ「ウェルフネ」及浦潮政権ノ如キハ色彩ノ明カラザル團体ヲ基礎トシテ形成スルニ於テ又之ヲ國際友誼ヲ顧ミザル過激政権ノ抱擁下ニアラシムルニ於テハ特ニ其根底薄弱ナルモノトス

六、彼我互ニ相侵襲セザルヘキ条件ノ下ニ勞農政府ニ之カ容認ヲ強フルヲ適當トセン而モ現下ノ大勢ハ少シク我努力ヲ惜マスンハ之ヲ達成シ得ヘク觀察セラル

七、「ゼムストオ」政権ノ下ニハ堅確ナル反過激派ハ出来ズ「イルクーツク」「ブラゴエ」ノ最近ノ例皆之ヲ證明スルモノトス

一般ニ「エス、エル」「エス、デー」等ニ対スル觀察ノ誤ルハ单ニ其性行又ハ人物ノ言論ニ迷ハサレ其実質實力ヲ洞察スルニ乏シキニ因ル

八、「セメノフ」ガ親日態度ヲ保持スルコトハ殊ニ西伯利ニ非望ヲ有スル過激派ノ好マザル所ナリ従ツテ反「セメノフ」普伝ノ力ハ強シ殊ニ國際關係ノ頻繁ナル場所ニ於テ普伝セラル

九、吾人ハ今日「セメノフ」個人ヲ云々スルモノニアラズ一般ニ極東露領ニ存在スル反過激派団体ヲ輕々シク捨ツルカ如キコトアランカ帝国ハ果シテ露國民衆何レノ階級ヨリノ同情ヲ求メ得ヘキカ必ズ後悔ヲ來スコトトナラン

十、如上ノ如キ状況ニ到達スルコトハ出兵ヲシテ無意義ナラシムルモノニシテ吾人ノ等シク忍ブ能ハザル所ナリ故ニ極東露領ノ反過激派団体ヲ捨ツヘキヤ否ヤニ就テハ実ニ深甚ノ考慮ヲ要ス

十一、西比利亞出兵ハ「チエック」ノ救援ヲ機会トシテ實現セルモ其真ノ目的ハ外ニアリ未曾有ノ大戦ニ際シ殆ト何等ノ創痍ヲ蒙ラザル帝国ニシテ然モ根底強固ナラサル過激派声言ニ致サルル状態ヲ馴致スルカ如キハ同意シ難シ

一一一 極東露領ニ緩衝地帯設置問題一件 五五六

フモ反過激派ト自由ニ相戦ハシメンカ革命軍ハ西方過激派軍ノ援助ヲ得テ直チニ反過激派団体ヲ攻撃スヘク然モ此場合ニ於テ日本軍ノ援助ヲ失ヒタル反過激派軍ハ急激ナル志氣ノ失墜殊ニ裝備ノ不完全ナルニ依リ勝算必スシモ之ヲ期スルヲ得ズ

軍ノ援助ヲ得テ直チニ反過激派団体ヲ攻撃スヘク然モ此場合ニ於テ日本軍ノ援助ヲ失ヒタル反過激派軍ハ急激ナル志氣ノ失墜殊ニ裝備ノ不完全ナルニ依リ勝算必スシモ之ヲ期スルヲ得ズ

五五六 五月十八日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

極東共和国ノ成立ヲ告グルウェルフネウジンスク政府代表ノ電報ニ關シ英國公使來談ニ付 請訓ノ件

第四四〇号 (五月十九日接受)

最近帝國カ西比利ニ緩衝地帯設定ノ意アルヤノ報道頻々トシテ伝ハリ当地外交團及外人一般ノ深キ注意ヲ惹キツツアル折柄昨十七日英仏両公使(多分其他ヘモ來リ居ルナラム)ヘ「ウェルフネウジンスク」政府代表「クラスノシチヨコフ」ノ名ヲ以テ頗ル長文ノ電報ヲ寄セ極東共和国成立ヲ告クト同時ニ右ハ此程浦潮日本帝國軍司令官ノ公表セル宣言書ノ趣旨ニモ順応スルモノナリト述ヘアル趣ニテ五月十八日英國公使本使ヲ來訪右電報接手ノコトヲ語リ本使ノ觀察ヲ尋ネタルニ付右ノ如キ電報ハ本使ニ於テ接手シ居ラザルノミナラス何等類似ノ報道ヲモ承知セズ従ツテ何等的確ナル觀察ヲ下スノ材料ヲ有セザルモ東西比利ノ現状不統一ヲ極メ隨所ニ兵力ヲ擁シテ独立スルモノ林立スル際斯クノ如キ西比利全部ニ亘ル独立ノ宣言ハ果シテ眞面目ノ沙汰ト

明ニ付報告ノ件

黒第十六号 (五月二十九日外務省写接受)

第二回商議ニ於テ「ウェルフネ」政権ト過激派主義若クハ共産主義トノ関係ニ就キ説明ヲ求メタルニ外交代表者ノ答ノ要旨左ノ如シ

一、「ウェルフネ」政府ハ全ク過激主義若クハ共産主義ニアラズ民主主義トス即チ「ケレンスキ」政府ノ如キヲ理想トス而シテ党派的見解ヲ離レタルモノナリ

二、「ウ」政府ト労農政府トノ関係

「ウ」政府ノ軍隊ハ大ニ疲レアルモ労農政府ノ軍隊ヲシテ一步モ進入セシメザルヘシ又労農政府ハ何等我政府ニ反対セザルヘク現今彼トノ間ニ厳格ナル条約アリ万一違背セバ十分其責任ヲ問フヘシ尚国境ノ如キモ「セレンガ」河ノ線ヲ北後貝加爾州界ニ改ムルコトハ希望スルモ本問題ハ極東全部ノ政情恢復、日本軍撤兵問題解決等ノ際労農政府代表者モ会合シ根本解決ヲナンタキ意見ナリ

尚小官ハ「ウ」政府ト彼ノ軍隊トノ関係ヲ尋ネタルニ彼ノ軍隊中ニハ過激主義若クハ共産主義ニ属スルモノナキ旨主張セシモ追窮ノ結果後貝加爾東部戦線ニハ「パルチザン」

ニシテ此主義ヲ奉スルモノアリ西部戦線中ニモ一部ノモノハ斯クノ如キ主義ヲ有シアルヲ認メ之ニ対シテハ不良分子ヲ解散シ正規軍ヲ編成スヘキ旨答ヘタリ
己ノ目的ヲ達セントスルハ彼等ノ常套手段ニシテ実力、实行之ニ伴ハザルハ其例証ニ乏シカラサル所ナリ

軍、五師団済ミ

五六三 六月五日 在浦潮松平政務部長ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

浦潮臨時政府ノメドウェジエフ來訪ノ際自分

一己ノ私見トシテ浦潮政府ヲ中心トシタル極

第二五〇号(極秘)

(六月六日接受)

極東露領ノ政権問題ニ対スル帝国政府ノ御方針ニ関シテハ屢次ノ電票ニ対シ何等御回示ニ接セザルモ当方面ニ於ケル政局ノ推移ハ傍観ヲ許サザルニ付本官ハ過般来臨時政府当局トモ屢々意見ヲ交換シテ彼等ノ感情ヲ緩和シ我方ニ接近セシムルコトニ努力シ居レルガ六月二日「メドウェジエフ」來訪懇談ノ際後貝加爾ニ於ケル政(脱)ノ始末ニ關シ日本

ノ援助ヲ請ヒタルニ付本官ハ全然一己ノ私見トシテ日本ハ極東ニ於テ民意ニ基ク堅実ナル政府ニシテ而モ極東ニ於ケル日本ノ地位ヲ了解シ誠意ヲ以テ善隣ノ誼ヲ全クスル政權ノ確立ヲ希望スルノ点ニ於テ自分ハ浦潮政権ニ最モ重キヲ置クモノナリ尤モ現在ノ政府ヲ以テ右ノ如キ希望ヲ満タスモノトハ認メズ此際成ルベク広キ階級即チ右党側ヨリモノ物ヲ網羅シテ内閣改造ヲ行ヒ将来共産党ノ横暴ヲ防グ如キ政府ニ改造セラルニ於テハ之ヲ中心トシ極東ノ政権統一ヲ援助シ得ヘシト述ヘ尚且下「ウェルフネ」政府トノ交渉ハ單ニ停戦問題ヲ議シ居ルノミニテ日本側ニ於テ同政府ノ政権ニ重キヲ置キ居ル次第ニアラザル旨述ヘタル処(一般ニ斯ノ如キ誤解アルモノノ如シ)「メ」ハ大ニ感謝ノ意ヲ表シ御希望ノ如キ政府ハ近ク発現スルニ至ルベキヲ信ズ過般内閣組織ノトキ有産階級側ニ地位ヲ提供シタルモ現政府ガ臨時のモノニシテ極メテ微弱ナルニ顧ミ彼等ハ入閣ヲ避ケタルガ近々国民議会召集ニ至ラバ彼等モ入閣スルニ至ルベシ尚自分ハ共産主義ニ対シテハ飽クマデ之ガ撲滅ニ努メ居ルガ此ノ目的ヲ達スルニハ彼等ト武力ヲ以テ争フコトヲ為サズ寧ロ彼等ヲ利用スルコト得策ト思考スニキホロフ」

五六四 六月十二日 在浦潮松平政務部長ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

極東露領ニ健全ナル統一政府樹立ノ方法及セ

メノフノ取扱方ニ付意見具申ノ件

(六月十二日接受)

一二 極東露領ニ緩衝地帯設置問題一件 五六五

六八〇

六月十二日佐藤少将着御訓示ノ次第拝承右実行方ニ関シ卑見左ニ開陳ス

緩衝地帯設置ニ關シテハ政府ニ於テ余り重キヲ置カレザル如キモ成ルベクハ健全ナル政府ヲシテ極東ノ政権ヲ統一セシメラレタキ御希望ト了知スノ如キ統一ヲ実現セシムルニハ「チタ」撤兵以前ニ行フコト便利ナリ而シテ右期間モ切迫シ居レルニ付此際至急浦潮「ウェルフネ」黒竜各政権代表者ノ聯絡協議ヲ進メンムルコト必要ナリ而シテ既ニ報告ノ通右三権ノ中浦潮政権ガ最モ内容確実ニ知レ居リ比較的穩健ナル様思ハルルニ付之ヲ主トシテ行動セシメタシ然ルニ本官後貝加爾ニ出張シテ政権統一問題ヲ議スルコトハ結局「ウェルフネ」政権ニ權威ヲ与ヘ浦潮政権ハ勢力ヲ失墜スル結果ヲ生ズベキニ付此際本官ハ当地ニ止マリ「ウェルフネ」政府ヨリ代表者ヲ至急浦潮ニ派遣セシムルコトニ致シタシ（先方ハ委員ノ派遣ヲ希望シ居レリ）而シテ一方停戦問題ハ我軍憲ト「ウ」政府代表者トノ間ニ進メシメ政権統一問題及セメノフ問題ニハ触レシメザルコト致シタシ「セメノフ」ヲ新政府ノ内ニ包含セシメ又ハ軍隊指揮官トシテ存置スルコトハ目下ノ状況上不可能ナルノミナラズ

仮ニ我武力ヲ以テ無理押ニ行ハシムルモ其結果ハ必ズ極東ノ擾乱及帝国ノ不評判ヲ惹起シ事態ノ改善ヲ見ルコト能ハザルベキニ付寧ロ政権ヲ放棄セシメ一旦露国ヲ去ラシムルコトトシ其生命財産及部下ノ安全ニ対シテハ我方ニ於テ責任ヲ以テ新政府ヲシテ保障セシムルヨリ外ナシト思考尚浦潮政権ヲ成ルベク穩健ノモノニ改造セシムルコトニ関シテハ御異議ナキ限り從来通運動ヲ試ムル積ナリ当地方ノ空氣ハ近來余程変化シ来リ政府当局者等ハ日本ニ信頼スル傾向徐々ニ現レ来リ又共産主義ニ反対ノ勢力ガ漸次増加シツツアリ

右ノ意見ニ対シ御異議アラバ至急御訓示ヲ請フ（十一日）居レリ

五六五 六月十二日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

セメノフノ取扱方ニ關スル浦潮臨時政府司令

第二六五号 過日陸軍大臣ヨリ當軍司令官ニ達シタル訓令中「セメノフ」

（六月十三日接受）

浦參牒第四九〇号軍ノ方針第一項ニ基キ十四日松平部長ヲシテ「メドウエジエフ」ニ対シ極東各政権代表者ヲ当地ニ召集セシメラレ度キ件ヲ勧告セシメタルニ彼ハ大ニ悦ヒ早速「ウ」政権ニ代表者派遣ヲ請求スヘシト答へ又我軍ヨリモ之ヲ伝ヘラレタシト依頼セリ依ツテ軍ハ第五師團長ニ此意ヲ伝フルト共ニ途中ニ於ケル代表者ノ護衛ハ我軍ニ於テ完全ニ実施スヘキ旨ヲ告ケシメタリ又「メドウエジエフ」ハ「ブランゴエシチエンスク」政権ヲ自己ノ掌中ニ収ムル事ハ敢テ至難ナラサル旨ヲ洩ラセリ

五六六 六月十七日 浦潮派遺軍參謀長ヨリ
本官ハ右ハ水炭相容レズ到底実現不能ト思考シ居ルモ六月十一日本官「ボルヴィレフ」將軍ト懇談ノ際其レトナク意見ヲ徵シタルニ予ハ兼テヨリ本件ニ關シテハ十分慎重ノ考量ヲ加ヘ何トカ「セメノフ」ノ立場ヲモ救ハント計リタル

モ何分部下ノ横暴ノ為民間ニ於ケル反「セメノフ」空氣ノ

盛ナル今日彼ニ与フベキ適當ノ地位ナキヲ恨ム強イテ求メ

ントセバ「セメノフ」ヲシテ貝加爾哥薩克統領ニ任命スル

ノ外ナキ処斯クテハ彼ノ部下ハ依然横暴ヲ極メ極東政府ノ

安定ニ故障ヲナスヤ明カナリ予ハ過去ニ於ケル「セメノフ」

ノ功績ヲ認ム又日本軍憲ガ之ヲ漫然見放スハ情ニ於テ忍ビ

ザル所ナルコトモ諒トス然レトモ成行次第ニテ一時引退ス

ルヨリ外ナシト信ズ臨時政府ヲシテ速ニ極東諸州ノ統一事業ヲ行ハシメ漸次日本ニ良好ナル健全ニシテ信頼シ得ベキ

政府タランメンガ為ニハ「セメノフ」問題ノ解決ハ焦眉ノ急務ナリト述ベタリ臨時政府側ニ於テ同將軍ハ本件ニ關シ最モ穩健ナル考ヲ有スル筈ナルニ付他ノ當局ノ「セメノフ」ト相容レザルコトハ推シテ知ルベシ

註 軍ノ方針第一項ハ左ノ如シ

速ニ極東露領ヲ統一シ其政権ヲ安定セシムル為浦潮政権ヲシ

テ「ウェルフネ」及「セメノフ」ノ政権ノ代表者ヲ浦潮ニ会合セシムルコト

五六七 七月二日 在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

後貝加爾ヨリ我軍ヲ撤退セバ同地方ハ混亂ニ

陷ルベク我在留民ハ先ヅ引揚ゲル必要アル旨

在チタ緒方ヨリ稟申ノ件

（七月二日接受）

第四六九号 第四六九号
緒方ヨリ左ノ通
外務大臣ニ転電アリタシ
第八九号 御留意ノ上是ニ対シ予メ御内訓アリタシ

此頃仄聞スル所ニ依レバ政府ハ浦潮派遺軍当局ヲシテ浦潮「ウエルフネ」及「セメノフ」代表者ヲ会合セシメ緩衝国ヲ設定セシメ而シテ先ヅ後貝加爾地方ヨリ即時撤兵セシメントノ計画アリト右果シテ事實ナリトセハ左記卑見ニ関シシテ過激派ノ仮面ヲ被リ居ル不俱戴天ノ敵トナシ是等ト握手スル事ハ主義ニ於テ絶対ニ不可ナレバ飽クマデ戰鬪ヲ繼續スベシトナシ又後者ハ「セメノフ」政府ヲ目シテ極東（脱）トナシ是ヲ排除スルヲ以テ最大任務ノ一トナシ居ルコトハ

世上周知ノ事實ナリ

(2) 故ニ前記ノ計画ガ予期ノ如ク実現スルヤ否ヤ疑問ナリ然レドモ若シ何等カノ条件ノ下ニ妥協成立シ我軍撤退スルニ至ラバ後貝加爾ハ当ニ混亂ニ陷ルベシ
(3) 何トナレバ當地方ハ目下表面頗ル平靜ナルモコレニ我軍ノ駐屯セルガ為ニシテ一朝はガ撤退ヲ見ルニ至ラバ是迄隱忍沈黙シ居タル過激派分子ハ忽チ奮起シ同時ニ路頭ニ於テ生活難ニ苦メル多数ノ住民モ亦止ムナク過激派ニ投ジ終ニハ收拾スペカラザル情態ヲ招致スペケレバナリ

(4) 其ノ結果ハ比較的有福ニ生活シ來リ且住民ノ為羨望セラレ幾分ノ反感ヲ買ヒ居ル我在留民（約五百五拾名）ハ是等住民ト我軍ニ怨恨ヲ懷キ居ル過激派ノ軍ニ襲ハレ「ニコリスク」ノ二ノ舞ヲ演ズルナキヲ保セズ

(5) 以上ノ理由ニ依リ若シ前記ノ計画ニシテ實現セバ居留民ハ断ジテ引揚ゲズトノ決議ヲナシ居ルト雖モ事實殘留（脱）ト思ハルニ付此場合ハ撤兵前ニ先ヅ居留民ヲ引揚ゲシムルヲ必要ナリト信ズ
右松平、佐々木済ミ（長春經由七月二日前一一、〇〇）

五六八 十二月二日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

極東露領緩衝國設置ニ對スル一般露人及共產

党ノ態度ニ關シ並我方ノ施措ニ付渡辺領事ノ

意見電報ノ件

第五〇〇号ノ一

（十二月二日接受）

「チタ」ヨリ帰来シタル渡辺領事ノ報告意見其儘左ニ電報ス

共產党側ノ極東緩衝國所在地ニ關シテハ當地同黨有力家ハ素ヨリ本夏当地ニ來リタル黒竜政權代表者一行等ガ松平前政務部長ニ陳述シタル所アリ且當時大井司令官ノ質問ニ対シ同代表者ヨリ文書ヲ以テ明答シタルコトアリ今回小官「チタ」ニ出張中「クラスノ」一派モ宣言懇談等ニテ斎シク非共產的民主政體設置ヲ期スル旨茲之ガ实行ハ勞農ノ信賴スル共產党ニアラザレバ他ノ政黨ニテハ到底実現不可能ナル理由竝共產党ハ能ク一人ヲ欺クベキモ極東全民乃至全世界ヲ欺瞞シ得ルモノニアラザルヲ以テ日本側ニ於テ此際我党ノ実績ヲ監視セラレタシト説キ統一會議ニ列シタル勞農哥薩克議員中ノ重立チタル者等モ本官トノ懇談ニ於テ同

二二 極東露領ニ緩衝地帶設置問題二件 五六八

一一一 極東露領二緩衝地帶設置問題一件 五六八

卷八

之徒ヲニ統一復興ノ事業ヲ妨止シ将来ニ於ケル我經濟的
發展ヲ害シ米支其ノ他ヲシテ此ノ虚ニ乗ジ利益ヲ計ラシム
ルノ結果ヲ招致スルモノト云フベク現ニ英國ノ対「ソビエ
ト」露西亞通商條約締結乃至伊國ノ交渉説伝ヘラレ支那ハ
軍事外交使節ヲ（脱？）莫斯科ニ其ノ領事等ヲ駐在セシメ
米國資本家モ亦「ソビエト」政府ヨリ利權獲得ノ報ヲ伝ヘ
テアルル今日独リ日本ガ極東ノ隅ニ駐兵シテ共產主義排斥
ノ名ノ下ニ「ソビエト」露西亞ノ通商問題ノ交渉ハ元ヨリ
右多數露民（仮令謬見ニ迷ヘルニセヨ）ノ欲スル極東統一
事業サヘ之ヲ長引カシムヘキ實例ヲ自ラ（不明）トナスハ
策ノ得タルモノニアラズト思料ス右僭越ヲ顧ミス卑見ヲ開
陳ス

ハク速ニ兵員武器ノ代リニ欠乏物件ヲ輸送シテ我窮境ヲ救
ハレ両国民間将来堅実ノ相互利益増進ニ尽力セラレタシ云
々トテ殆ド懇願のニ陳情シ彼等ガ現「チタ」政権ヲ信頼ス
ル事實ヲ挙ゲ露民窮状ノ中ニモ将来ノ平和生活ヲ樂觀シ居
ル事實ニ付之ヲ考查スルニ共産党一派從来ノ諸説ハ強チ自
家広告ノ説ニ非ズ仮令右現象ガ彼等年來ノ努力宣伝ト實際
労農擁護ノ名義下ニ反対派ニ対シ惡戰苦闘シテ今日ニ至レ
ル事績ハ既ニ地方民衆ノ脳裏ニ深キ根底ヲ有シ此ノ民衆心
理ハ容易ニ動カシ難キモノアルヲ感ゼシメタリ依ツテ仮令
盲従的ナルニセヨ彼等ガ斯程ニ信頼セルモノヲ拒否シテ外
國側ヨリ之ヲ倒シ他党ヲ推サントスルガ如キ態度ヲ示サン
カ之ヲ歓迎スルモノハ極ク少數ノ右党一派ニ止マリ大多数
ノ労農「カザック」（カザックノ大部分ガ「セメノフ」）一
派ニ反抗シテ蹶起セルハ「カザック」有力者ノ本官ニ語リ
タル所）ハ一層排外攘夷的ニ悪化シ時局ヲ益々困難ナラシ
ムルノ虞アリ就イテハ若シ帝国ニシテ緩衝国設置ヲ欲スル
次第ナラバ共産党ガ果シテ誠意其ノ宣言ヲ実行スルヤ否又
ハ誠意アリトルモ果シテ從来ノ行懸リ上衆愚ヲ制御シ得

ルヤ否ヤノ問題ハ暫ク別物トシ既ニ我軍憲側ニ於テ対共產主義態度ヲ明示セル今日故此際我ニ於テハ「クラスノ」一派ノ行動ヲ傍観シ其ノ宣言実行ヲ厳重監視シテ憲法會議ノ結果如何ヲ重要視スルノ態度ヲ持シ若シ彼等ノ政令中我ガ利益ヲ害スル場合ハ之ヲ否認シ妨害セシムルニ止メ暗ニ彼等ノ事業ヲ監督指導スルコトトシ果シテ彼等共產党執政ノ結果自ラ倒ルニ至リ之ニ代ルモノ出ヅル時ハ之ヲ助ケ又万一彼等ガ宣言ヲ実行シテ相当事績ヲ挙グル時ハ之ヲ援助シテ我利權ノ獲得ヲ計ルヲ得策ト思考ス而シテ右監視指導ノ為「チタ」ヲ初メ「ブラゴエ」「ハバロフスク」「ウェルフネ」等各要地ニ帝國官吏ヲ派遣スルヲ目下ノ急務ナリト認ム若シ夫レ之等派遣官吏ノ保護ニ関シテハ所謂現中央政府竝地方機關ガ極力其ノ責ニ任ズルヲ疑ハザルノ理由アリ若シ之ニ反シ帝國政府ガ現中央政府ガ單ニ共產党乃至其ノ共鳴者ヨリ成立セルノ故ヲ以テ徒ラニ毛嫌ヲナシ之ヲ排斥又ハ攻撃ズルノ態度ニ出デテ殊ニ日下ノ如ク各要地ヨリ我文武官教官ヲ引揚ゲシメ置カバ事態ヲ一層悪化セシムルモノト信ズ全極東乃至全露的将来ノ関係ニ着目スペキ帝國ガ

四、我軍ハ今ヤ自主的ノ態度ヲ定ム之カ為露人党派ノ一部ニ利害ノ影響スル所アルモ致方ナシ

五、極東問題ハ先ツ政治的ヨリ解決シ之ニ相伴ヒ經濟的提携ニ着手スヘキモノト信ス

六、我軍ノ徹底的態度ヲ採ルハ概シテ憲法議会成立シ完全ニ鞏固ナルモノ出来シ其ノ施設ノ一班ヲ實現シタル後ナル

江蘇通志

七

一一一 極東露領二緩衝地帶設置問題一件 五六九

六八五

観的態度ニ安ンジ彼等ノ為スガ儘ニ放任スル時ハ到着点

ニ達セントスル途中ニ於テ曰ニ重大事件ノ發生スヘキ虞

アリ為ニ緩衝国設立計画ヲ瓦解セシム故ニ之ヲ予防スル

ノ措置ヲトルコト必要ナリ

(欄外註記) 「大正九年十二月十一日陸相來談手交(内田外相印)」

事項一三 同盟及聯合諸國ノ対露政策関係一件

五七〇 一月十六日 在瑞典國日置公使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

英國ガ親過激派政策ニ転換セルニ対シ我方ハ
列國ヲ糾合シテ反過激派政策ヲ実行スルヲ要
ストノ意見稟申ノ件

(一月二十五日接受)

第八号

英國政府ガ反「ボルシェヴィキ」援助政策ヲ一変シ反ツテ
親「ボルシェヴィキ」トモ見ラルベキ態度ニ出デ露國各方面
面ヨリ撤兵ン金錢武器糧食等ノ供給ヲ停止シタル結果目下
「ボルシェヴィキ」全盛反「ボルシェヴィキ」窮極ノ時代
トナレリ右英國ノ政策変更ノ真意ニ付テハ種々ノ説アルモ
反対「ボルシェヴィキ」露人ハ之ヲ以テ英國ガ露國ノ勃興
ヲ好マザル利己主義ニ基クモノトセリ免モ角英國ノ反「ボ
ルシェヴィキ」軍援助ノ停止ト是ニ誘致セラレタル邊境諸
州対「ボルシェヴィキ」ノ休戦媾和トハ共ニ「ボルシェヴ
ィキ」ニ明確ナル対敵策戰ヲ実演スルノ機會ヲ与フルモノ
ニシテ其ノ「デニキン」「コルチャック」ニ対スル成功モ
州對「ボルシェヴィキ」ノ休戦媾和トハ共ニ「ボルシェヴ
ィキ」ニ明確ナル対敵策戰ヲ実演スルノ機會ヲ与フルモノ
ニシテ其ノ「デニキン」「コルチャック」ニ対スル成功モ

一二 同盟及聯合諸國ノ対露政策関係一件 五七〇